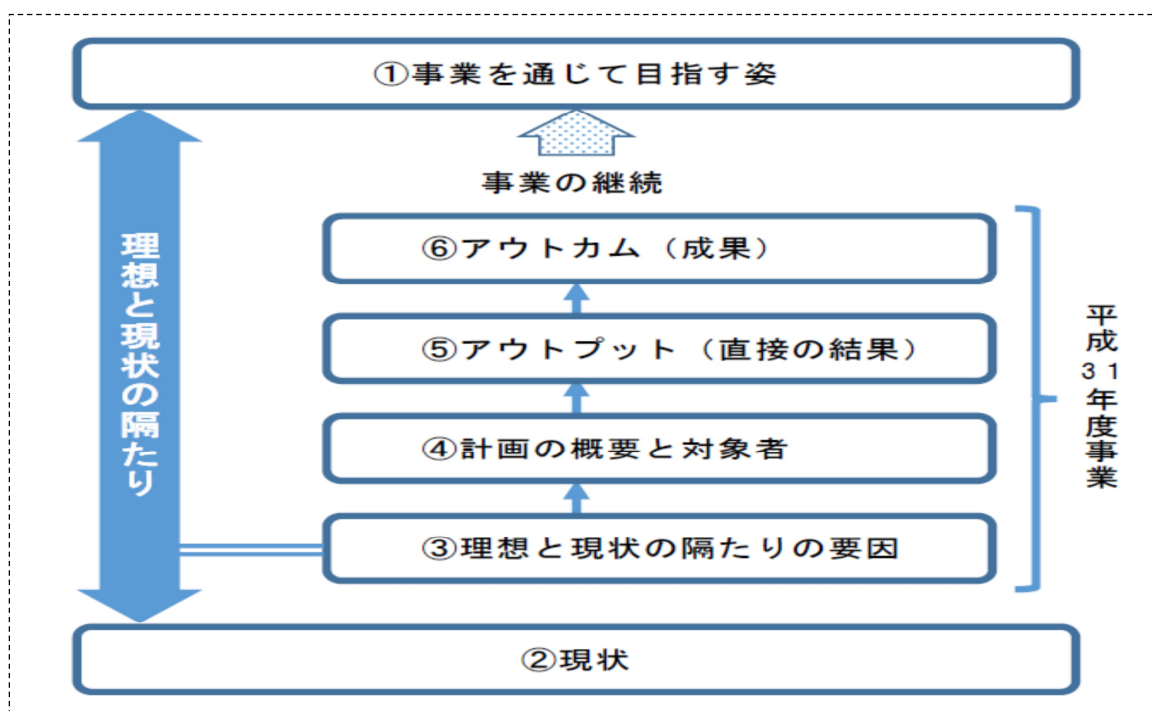


事業計画書

事業名	聴覚障害者のための和太鼓ワークショップ事業(3)
団体名	備中邦楽の里フェスタ実行委員会

記入する項目の関係図

次の図は、この事業計画書の各項目の関係を示したものです。以下、この図を意識しながら、各項目に記入する内容を検討してください。



1 目指す姿

事業を通じて目指す姿や、事業を実施する目的はどのようなものですか。「地域や社会、人のどんな問題を解決し、どのような状態にしたいのか」を具体的に記入してください。

- ・聴覚障害者のいきがいと社会参加、コミュニケーションのきっかけとなる、文化体験の場の創出。
(イメージ：聴覚障害者とその家族が、太鼓をコミュニケーションのツールとして、一緒に楽しむことができる。また、イベント参加などを目標にすることによる意欲が高まり、社会参加へのきっかけとなることが期待できる。)
- ・アーティストの社会貢献活動の場の創出。
- ・関連団体等との情報交換と連携強化。

2 現状

上記 1 の目指す姿と比べて、現在はどのような状況にありますか。

平成 28 年度 備中邦楽の里フェスタにおいて「小学生対象の和楽器ワークショップ（講師：山部泰嗣 / 倉敷天領太鼓）」を実施したところ、終了後に、参加者の保護者の方から、「実はうちのこどもは、耳が聞こえないのですが、和太鼓の体験をととても楽しんでいました」との感想を頂戴しました。

その後、聴覚障害者の方と意見交換をすると、太鼓は耳が聞こえなくても、空気の振動でリズムや場の一体感を楽しめることが分かりました。しかし、一般の音楽体験ワークショップなどに参加することは、周りの人に迷惑をかけないか、指示が言葉で説明されてわかるか、など不安が大きいこともわかりました。

平成 29 年度 倉敷市市民企画提案事業「聴覚障害者のための和太鼓ワークショップ事業」において、和太鼓ワークショップを開催したところ、参加者からは「このような機会が欲しかった」「今後も、継続してほしい」とのアンケート回答が多数寄せられ、期待とニーズがあることが、わかりました。「学校を卒業すると、社会とかかわる機会が減る」との声も、アンケートからわかりました。

平成 30 年度においては安定稼働を目指しました。具体的な取り組みとしては、スタッフだけでワークショップを準備から報告まで実施、参加者の満足度向上、関係機関への周知、オリジナル曲の制作、イベント参加への検討準備の 5 点が挙げられます。

3 目指す姿と現状の隔たりの要因

上記 1 と 2 の隔たりを生み出している主な原因はどのようなものと考えますか。

- ・聴覚障害者が安心して参加できる、地域イベント等が少ないため。
(地域イベント等について、聴覚障害者が安心して参加できるように、設計されていない)
- ・専門の手話通訳者を手配するには、費用が必要であるため。
- ・聴覚障害者とスムーズなコミュニケーションが可能なアーティスト等が少ないため。
- ・参加可能な機会があっても、情報が届きづらく、知らないため。

4 計画の概要と対象者（平成 31 年度）

上記 3 で挙げた要因を取り除くため、どのような人を対象に、どのような活動を実施しますか。150 字以内で簡潔にまとめてください（計画の詳細は下記 7 に記入してください）。

聴覚障害者が参加可能な和太鼓体験ワークショップを開催します（継続開催）。
聴覚障害者が音楽を楽しむために ICT（情報通信技術）を活用することが可能かどうか、専門企業等の視察を受け入れ、また意見交換を行います（新規）。

アウトプット（直接の結果）とアウトカム（成果）について

アウトプットとは 事業の直接の結果であり、事業を通じて、どれだけの人に対し、どのようなサービスが提供されたかをいいます。

アウトカムとは 事業の成果であり、アウトプットが地域や社会、人にもたらす変化や効果をいいます。事業はこのアウトカムを生み出せるように計画します。

アウトプットとアウトカムの関係
事業を実施すると、まず、 というアウトプットが生じ、次にその成果として、 というアウトカムが生じる関係にあります。

事業実施 アウトプット アウトカム

アウトプットとアウトカムの例

事業名	活動	アウトプット	アウトカム
学習支援事業	学習会の開催	月 4 回、各回 20 名参加	参加者の学習意欲の向上
就労支援事業	冊子作成・配布	1 千冊作成、800 人に配布	就労に必要な知識の習得
保護者支援事業	居場所の運営	週 2 回、各回 15 名参加	育児の負担感の緩和
移動支援事業	高齢者の送迎	週 2 回、各回 5 名利用	移動手段の選択肢の増加

5 アウトプット（直接の結果）

平成 31 年度の事業を通じて、どれだけの人に対し、どのようなサービスを提供しますか。

聴覚障害者を対象とした和太鼓ワークショップ・・・4回開催（各回15名）参加。
 イベント参加・・・1回実施
 企業の視察受け入れ・・・2社

アウトプットを測る指標と数値目標を記入してください。

指標	現状の数値	事業実施後の数値目標
ワークショップ参加者（のべ）	第 2 期（平成 30 年度） ワークショップ 2 回で 29 名	第 3 期（平成 31 年度） 60 名 / 4 回
視察受け入れ	0 社	2 社

事業実施後の数値目標は、どのような方法で測りますか。

聴覚障害者の社会参加への意欲の向上（アンケートで測る）
 聴覚障害者の心的ストレスの軽減（アンケートで測る）
 視察受け入れ（実績数値で測る）

6 アウトカム（成果）

上記 5 のアウトプットが、平成 31 年度中に、地域や社会、人にもたらす変化や効果はどのようなものですか。

イベントでの発表を通じて、聴覚障害者の抱える社会参加に関する不安等が、周知される。より多くの聴覚障害者に情報が伝わり、参加への意欲が高まる。

7 計画の詳細

(1) 具体的な内容

内容、対象者、実施期間、実施場所、ねらいなど、できるだけ明確に記入してください。

初年度（平成 29 年度）は、初めての試みではありましたが、聴覚障害者の支援団体等からの協力も得て、無事に全 3 回のワークショップを開催することができました。また、この事業が縁となって、岡山聾学校へのアーティストの訪問、生徒との交流も埋まました（副次的な効果）。「もっと早く知っていれば、周りに声をかけたかった」などの声も聞くことができ、内容への満足をいただけた半面、広報等に課題を残した結果でした。耳が聞こえない方々が、初めて、直接、音が出ている太鼓に触る体験そのものに、感動があり、参加者が笑顔になることを、講師や運営者も実感しました。

2 年目となる平成 30 年度事業は、より安定的・意欲的な事業内容を実施いたしました。リズム遊びから演奏の初歩までだった内容を、一歩進めて、曲にチャレンジすることで、参加者の意欲を一層高めることを狙いとししました。スタッフだけでワークショップを準備から報告まで実施、参加者の満足度向上、関係機関への周知、オリジナル曲の制作、イベント参加への検討準備といった点を重視して取り組むことで、事業の安定稼働を目指しました。

そして、3 年目となる平成 31 年度においては、ICT（情報通信技術）の利活用を視野に入れて、企業からの視察受け入れや意見交換を行うほか、関係部署との連携を図り、行政課題・政策課題としての意味づけを考慮します。関係団体との連携を深めて、「倉敷モデル」とも言える、聴覚障害者が参加できる体験型のプログラムの精度を高めます。

ワークショップ開催

- ・聴覚障害者が安心して参加できる、和太鼓ワークショップを開催します。
- ・全 4 回開催。（8、9、10、11 月）は、新しい参加者を含めて周知を行い、初心者でも参加できる会を開催します。会場：地蔵院ホール（岡山県倉敷市阿知 3 丁目 20-17）
- ・ワークショップ開催時に、ICT に関連した企業等の視察を受け入れます。

イベント参加

- ・ワークショップ参加者を中心としたグループで、イベントに参加し、演奏を披露します。（ジャズストリート倉敷での会場参加を協議中）

(2) スケジュール (準備～実施～報告)

7月	・ワークショップ告知
8月	・ワークショップ開催
9月	同 (視察受け入れを検討)
10月	同 (視察受け入れを検討)
11月	同、イベント参加
年度末	・報告

(3) 実施体制

上記(1)の計画を実施するにあたり、実際に取り組む団体会員を記入してください。また、人件費を支払う予定の団体会員には、人件費欄に「有」を記入してください。

氏名	事業に有効な資格や経験	人件費
坂ノ上 博史	昨年度事業運営参加(企画)	無
鶴井 一美	昨年度事業運営参加(運営)	無
元岡 祐子	昨年度事業運営参加(運営)	無
山本 将徳	昨年度事業運営参加(経理担当)	無
(以下、員外)		
美鵬 直三朗	和太鼓 講師	(謝金)
東 久示	岡山県聴覚障害者福祉協会 事務局長(アドバイス)	無
土屋 教子	NPO 法人岡山聴覚障害者支援センター 副理事長(同)	無
水子 貴皓	カメラマン(記録協力)	無
10名を超える場合は、外 名としてください		外()名

8 受益者負担 事業の財源確保のため、可能な限り参加費や受講料などを徴収してください。

(1) 徴収する(見込み: 参加費として、1名あたり、500円程度を徴収する予定)

(2) 徴収しない(理由: _____)

様式第 3 号

収支予算書			
1 収入の部			
科目	内訳	金額(円) ²	積算根拠
受益者負担		50,000	500円 * 20人 * 5回 = 50,000
会費からの繰入		19,000	
その他		100,000	寄付金
市補助金		300,000	
収入合計		469,000	(支出合計と一致)
2 支出の部			
科目	内訳	金額(円) ²	積算根拠
人件費(会員) ¹		0	
交通費(会員) ¹		0	
人件費(講師等)		0	
謝金(講師等)		160,000	2万円 * 5回 = 100,000(講師) 6,000円 * 2名 * 5回 = 60,000(通訳)
旅費交通費(講師等)		213,000	16,300 * 2 * 5回 = 163,000(JR) 10,000 * 5回 = 50,000(宿泊)
消耗品費		0	
印刷製本費		0	
通信運搬費		0	
保険料		6,000	40円 * 30名 * 5回 = 6,000
使用料・賃借料		40,000	会場借料 10,000円 * 4回
外注費・委託費		50,000	楽器運搬 10,000円 * 5回 = 50,000
対象経費計		469,000	
食糧費		0	
人件費		0	
その他		0	
対象外経費計		0	
支出合計		469,000	(収入合計と一致)
1: 会員に支払う人件費と交通費の合算額は、対象経費計の1割を上限とする。			
2: 金額欄は切り上げて千円単位で記入してください。			

組織運営体制

団体名	備中邦楽の里フェスタ実行委員会
ふりがな	びっちゅうほうがくのさとふえすたじっこういいんかい
法人格(をつけてください)	<input type="checkbox"/> 任意団体・NPO 法人・一般財団法人・一般社団法人・公益社団法人 公益財団法人・社会福祉法人・協同組合・その他 ()
CANPAN 登録の有無	有 ・ <input type="checkbox"/> 無

CANPAN: 日本財団及び特定非営利法人 CANPAN センターが運営する, 市民・NPO・企業などの活動を支援する WEB サイト
以下の項目は, CANPAN に登録する情報と同等の内容です。登録済みの場合は, そちらを参照すると便利です。

1 組織体制

任意団体活動開始年月	2015 年 1 月 (西暦)
法人格取得年月	法人格なし
事務所 所在地	岡山県倉敷市中央 2 丁目 13-3 住吉町の家 分福
代表者	職・氏名 委員長 坂ノ上博史
	電話番号 080 - 4629 - 6629 (連絡可能時間帯 9 時 ~ 17 時)
ウェブサイト URL	http://
活動地域	倉敷市を中心とした高梁川流域 (備中エリア)
役員数・職員数計	6 名 (役員 5 名, 職員 1 名)
設立年月	2015 年 1 月 (西暦)
活動分野 (該当に をする) (複数回答可)	<input type="checkbox"/> 子ども・ <input type="checkbox"/> 青少年・ <input type="checkbox"/> 障がい者・高齢者・在日外国人・留学生・福祉・保健・医療・ 教育・学習支援・地域・まちづくり・ <input type="checkbox"/> 文化・芸術の振興・スポーツの振興・ 環境・エコロジー・災害救援・地域安全・人権・平和・国際協力・国際交流・ 男女共同参画・IT の推進・科学技術の振興・経済活動の活性化・起業支援・ 就労支援・労働問題・消費者保護・市民活動団体の支援・ <input type="checkbox"/> 観光・農山漁村・中山間・ 助成活動・食・産業・漁業・林業・行政監視・情報公開・行政への改策提言・ 学術研究・その他 ()
活動目的 (規約等に定めるもの)	・和楽器を使った和の音楽文化を活かした地域活性化事業 ・倉敷市文化振興基本計画に即したイベント等の事業 ・和楽器アーティストの社会貢献に関する事業 ・和楽器アーティスト及び関連業種・業態の雇用創出に資する事業
設立以来の主な 活動実績	平成 27 年度 文化遺産を活かした地域活性化事業 (文化庁) ・備中邦楽の里フェスタ 2015 の開催

様式第 4 号

	<p>平成 28 年度 高梁川流域観光プロモーション事業（倉敷市観光課）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・備中邦楽の里フェスタ 2016 の開催 <p>平成 28 年度 高梁川流域圏販路開拓支援補助金（倉敷市商工課）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・和楽器カフェの開催 <p>平成 29 年度 倉敷市市民企画提案事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・聴覚障害者の和太鼓ワークショップ開催 <p>平成 29 年度 自主事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・備中邦楽の里フェスタ 2017 の開催 <p>平成 30 年度 倉敷市市民企画提案事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・聴覚障害者の和太鼓ワークショップ開催（2）
現在特に力を入れていること	<ul style="list-style-type: none"> ・収益事業の開発（和楽器カフェ） ・全国団体との連携

2 団体概要と財政状況

団体の活動・業務 （事業活動の概要）	<p>会員数 16 名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・委員会 年 2 回 ・事業運営会議 月 1 回程度 ・毎年、「備中邦楽の里フェスタ」を開催する。 ・その他事業を、年 2 ～ 3 件程度、実施する。
今後の活動の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・障害者をはじめとする多様な市民が、和楽器に触れる機会を増やす事業を展開する。 ・団体の自律的 / 自立的な運営に向けて、自主事業による収入増加を目指す。 ・高梁川流域ならびに全国の団体等との連携を図る。
最新決算総額 （該当に をする）	100 万円未満・100～500 万円未満・500～1,000 万円未満・1,000～5,000 万円未満・5,000～1 億円未満・1～5 億円未満・5 億円以上
定期刊行物	特になし

3 活動概要と協働実績

助成金・補助金等の支援を受けた実績	<ul style="list-style-type: none"> ・文化庁 ・倉敷市（観光課） ・倉敷市（市民活動推進課）
他 NPO・市民活動団体との協働実績	<ul style="list-style-type: none"> ・岡山県聴覚障害者支援センターとの協働
企業・団体との協働実績	
行政との協働実績(委託事業など)	特になし。